

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 山鹿市立山鹿中学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	生徒 693 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1) 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。 (2) オリンピアン生き方を学ぶ。
5 取組内容	(1) 事前学習（保護者向け講演会） 平成29年9月19日（火）に本校体育館にて、川上優子氏（陸上競技長距離：マラソン・アトランタ大会7位、シドニー大会10位）を迎え、保護者向けのオリンピアンによる講演会を実施した。保護者向けの講演を行い、講演の内容について家庭で子どもに話をしてもらうことで、事前にオリンピアンに対する生徒の興味・関心を高めた。 講演では、オリンピック競技大会に参加して感じたこと、陸上競技を始めてからオリンピック競技大会に出場するまでの経緯、陸上競技における夢、オリンピック競技大会に出場する過程で学んだこと（夢を叶えるために必要なこと、よき指導者像など）などについてお話いただいた。 (2) オリンピアンによる講演会（生徒向け） 平成29年10月31日（水）に、本校体育館にて、川上優子氏による講演を実施した。 講演では、「夢」をテーマに、自分は何がしたいのか、何ができるのかということを生徒たちに考えさせる内容を、川上氏自身の経験をふまえてお話いただいた。どんな風に考え、練習を重ねてきたかを中心にお話いただいた。 (3) ディスカッション

	教頭先生の進行による３つのテーマに関するディスカッション 登壇者：川上優子氏 内田先生（高校・大学でラグビー） 磯部先生（高校・大学でハンドボール 日本一を経験） テーマ：①ケガや挫折の乗り越え方 ②メンタル面の強化の仕方 ③緊張せずにパフォーマンスを発揮する方法
6 主な成果	講師からいただいた講演内容からみた成果 ① 自分の「夢」に向かって努力することの大切さ 楽しさからはじめた駅伝であったが、悔しい思いも多く経験した。「駅伝で日本一になる」という自分の夢を叶えるために、練習を重ねたり、自分を高められる場所に身を置き、それらを通してオリンピック出場という貴重な経験もさせてもらった。 ② 「自分を信じ続けること」 結果が出ないときにこそ、自分だけは自分のことを認めていた。これはメンタルの強さに関係なく、みんなができることだと思っている。 ③ 「なる」と決めることによる行動や思考の変化 中学生は自分で判断ができる年齢。何をすべきかをきちんと自分で判断して、「なる」と自分で決めることで行動や思考が変わり、それがチャンスになる。 ④ スポーツによる人間形成と周囲の支援の大切さ 競技生活をする中で、よき指導者との出会いが自分をつくってくれたと感じる。自分で考えたり判断する力を身に付けられたのも、そのおかげである。私も指導者としての活動を徐々に始めているが、周囲の支援は競技者にとって非常に重要だと感じている。 2回の講演を通して、主に以上のような内容について、生徒やその保護者は理解を深めていた。
7実践において工夫した点（事業の特色）	事前学習として保護者向けの講演会を実施し、家庭で子どもたちと講演内容に関する話をしてもらったあとで、生徒向けの講演会を実施したこと。家庭での対話が生まれると共に、理解や思考の深まりが期待された。生徒向けの講演会の最後には川上氏と教員の代表がディスカッションの形式で対話することで、生徒に親近感を持たせ、意欲的に講演を聞くことができたようにした。
8主な課題等	講演会の最後に設けた質疑応答の時間が十分でなかったこと。 オリンピックに来校してもらうよい機会であったが、実技に関連させた内容は盛り込むことができなかったこと。
9来年度以降の実施予定	生徒からも保護者からも、有意義な時間であったとの感想が聞かれたため、是非継続して来年も実施したい。